

関東民放クラブだより

一日一捨か一色か

新潟支部長 樋浦 孟



現役員の努力のお陰で、昨年初めてほぼ同会員数で新年を迎えることができました。

また新同好会「街歩きの会」をスタート。会員自らガイド役になり街の今と昔を語りながら探訪を始めています。

平成最後の「新年」なので本棚整理等、断捨離をしようと決心？昨年秋、テレビ番組でゲストの僧が「断捨離」は殆どの人が短期間にまとめてやろうとし挫折している。それよりも一日一つを捨てる事の繰り返しで達成できるのだと。

つまり『一日一捨』。こう書替えた途端自ずと以下の四文字熟語が次々と浮かんできました。

一日一善、一日一想、一日一掃、一日一考、一日一孝、一日一心、一日一振、一日一作、一日一誌、一日一路、それとも一日一色かな。

おっと、今年も新潟の朱鷺は元気に越後平野を飛び回ります。

クラブ間のネットワーク構築

静岡支部代表 曾根正弘



老後を安閑として暮らせない時代になり、仕事を必要があるようになってい

ていますね。そんな時、同業を経験した人のつながりが、何かを発信するチャネルにもなる、ということが物心両面で支えになるように思う。民放クラブ内の交流をより盛んにするため、様々なイベントを企画することが有効な手段となるでしょう。そして、イベントが成功するためにはクラブ内、あるいはクラブ同士の連絡、広報がしっかりと実行されることが決め手。

新年はそのようなネットワークをアクティベートするように努力したいと考えています。会員が高齢化するなか通信手段の確保がとても大事で、メールや携帯電話など有効なネットワークを構築しその普及、徹底にも努めます。そして新たな参加者が加わる状況をつくることを目標に活動いたします。

支部会報の充実

長野支部長 神波 潔



新しい元号になる年を迎えました。長野支部は平成という時代とともに歩んだといえます。

発足は平成4年7月、長野五輪の開催が決まった翌年です。

平成13年に会報「やつほく」の第一号が発行され、発刊のことばに「先ずは、やつほくとごあいさつします」とあります。

平成25年には、長野県の男女の平均寿命がともに全国1位となる快挙があり、支部の会員数もピークに達した時代でした。しかし、次第に会員の数が減少し、いまは110人台を行ったり来たりしています。長野支部の今年の課題、何と言っても会員の確保と各同好会活動の活性化につきます。

わが会報「やつほく」は、いま会員の近況欄を充実させ魅力ある会報に生まれ変わるよう、編集の大転換をはかっています。今年の新元号になる年、御嶽海が大関から横綱に、いろいろな夢を抱きながら猪突猛進したいと思っています。

日本民放クラブ事務局



事務局長 橋本 春海
事務局員 穴吹千賀子

明けましておめでとうございます。今年の事務局の初仕事は、恒例の関東七福神めぐりで参加者の皆様のご挨拶からスタートです。

今年はまだ全国組織の同好会の誕生や広域交流活動など、各地区の皆様とのやり取りが増えるのではと、楽しみに致しております。

事務局は、月々金曜日を二人交代で勤務しており、事務局長の橋本は、関東民放クラブのダンス、無線クラブそれにSNSビデオの会に参加し、穴吹も、陶芸の会に所属しております。

相互の評は、橋本は「今年の干支通り、猪突猛進のラグーマン」、穴吹は「冷静沈着で頼りになる聡明女性」。今年も、こんな二人がコンビを組んで、日本民放クラブの益々の発展の為、心を込めて勤めますので、お気軽にお声をかけて下さい。皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。